

研究課題	仏教系写本のメタデータ作成および共有に関する研究
研究代表者	神達 知純 (仏教学部 仏教学科 准教授)

1. 研究目的

近年、世界の学術機関で盛んに行われている貴重書のデジタルデータ化とその公開によって、研究者がより多くの資料を効果的にかつ容易にアクセスできるようになってきている。この作業を円滑に進めるためには、貴重資料を有する大学附属図書館と、専門知識を有する研究者が協働して図書館のシステム・環境の向上に組織的に取り組むことが重要となる。

そこで、本研究では、①大正大学の所蔵する仏教系写本の現状に焦点を当て、専門的知識を必要とする梵文写本のメタデータの作成をおこない、②それを提供する仏教系大学図書館における情報共有および、データ公開の方法論的基盤の構築について研究することを目的とする。

2. 研究方法

大正大学附属図書館の所蔵するインド・ネパールの写本の調査およびメタデータ作成と、情報共有に向けたプラットフォームの構築を目指すものである。本研究では、大正大学附属図書館所蔵ネパール写本の目録作成に向け、学内外の写本研究者と協力体制をとりながら、図書館所蔵の梵文写本の写真撮影、内容の調査、および書誌データの作成をおこなう。大正大学附属図書館と連携をとり、書誌データ項目の検討、および公開方法に対する研究者としての提言をおこなうための基礎資料を作成する。

また、大学図書館職員と研究者との間の協力体制を構築することを目的とし、専門知識の共有をはかるため研究会を開催し、図書館業務における連携に繋げる。また、他大学における貴重書のデジタル公開の方法についての実見調査を実施し、今後の大正大学附属図書館におけるネパール写本の公開方法について検討をおこなう。

3. 研究成果と公表

本研究では、①大正大学附属図書館所蔵文献の暫定目録作成、②仏教系大学図書館における貴重資料の扱いに関する聞き取り調査、③人文情報学における仏教文献の現状について、研究・調査を実施した。

大正大学附属図書館所蔵ネパール写本目録作成の計画は、平成 22 年 2 月に実施した附属図書館の所蔵する写本の第 1 回目の調査を始まりとするものである。その際に採取したデータを元にして、平成 28 年 9 月に第 2 回調査を実施し、内容の精査をおこない、それにより暫定的な目録としてまとめた。この写本調査は、附属図書館で行われている貴重書公開にむけた試みの一つとして、附属図書館と仏教学部および総合仏教研究所の協働により実現したものである。

写本の調査は、平成 5・6 年度に文部省（現文部科学省）私学研究設備助成により大正大学附

属図書館が日本文化資料センターより購入した約 60 本のネパール写本のうち、図書館資料 ID および請求番号が付与されたものを対象として整理し、目録を作成、および、写本のデジタルデータ化に向けた書誌データの採取を目的としている。これらの大正大学附属図書館所蔵ネパール写本の整理・目録作成にあたっては図書館の所有する木村高尉元大正大学教授が作成した日本文化資料センター所蔵写本簡易目録（木村目録、私家版）を参考にしながら、詳細に項目化し、目録データを作成した。図書館所蔵ネパール写本の包み紙には、資料管理用と見られるタグやシールなどで資料ナンバーが付与されている。その番号に従って図書館資料 ID・請求番号が付与されているため、便宜上、目録はその配列に従って作成している。さらに、いくつかの写本には、大正大学の購入以前に付与されたと見られる簡単な内容のメモが書かれた白いシールが貼られている。このようなメモがあるものについては、目録の備考にその内容を記載している。この目録は、第 1 回調査の際に採取されたデータから総合仏教研究所の平林二郎氏がまとめた調査ノートを元にして、第 2 回調査においてより詳しくデータを取り直し、修正を行ったものである。写本データ採取にあたっては、特に写本に書かれる奥書の情報が極めて重要であるため、国際仏教学大学院大学の堀伸一郎氏にご協力をいただいた。これにより、使用言語、書体、書写年代、筆写者まで確認することが可能となった。

本目録は、図書館調査報告書であり、暫定的な目録として作成したものである。今後は、写本に使用される文字がネパール系の文字がほとんどであるため、種智院大学スダン・シャキャ准教授にも協力を仰ぎながら、これらのネパール写本を精査し、詳細な目録を作成し公開する予定である。また、この調査によって作成された目録データについては、図書館との協力により、必要事項を図書館蔵書検索システム OPAC に反映させ、検索システムに正確な書誌データを提供するために活用していく予定である。

仏教系大学における貴重書のデジタル公開の現状について、聞き取り調査をおこなった。今回の調査対象として、関東および関西の仏教系大学図書館の中で、佛教大学、大谷大学、龍谷大学の各図書館における聞き取り調査を実施した。

龍谷大学図書館では、デジタルアーカイブ担当より貴重書の書誌データの取り方、保存方法、デジタルアーカイブ（龍谷蔵）、これらに関する教職協同のあり方についての聞き取り、意見交換をおこなったのち、龍谷ミュージアムに移動し、さらにミュージアム担当者との意見交換をおこなった。

佛教大学図書館では、和本整理担当者との意見交換、図書館内書庫の閲覧、および佛教大学宗教文化ミュージアムにおける聞き取り調査と収蔵庫の閲覧、デジタルアーカイブについての意見交換をおこなった。

大谷大学図書館では、担当者より聞き取り調査をおこない、その後、泉芳環寄贈図書等を所蔵する書庫閲覧室の見学をおこなった。

大正大学附属図書館には、多くの貴重な仏教文献が所蔵されていることは周知のとおりであるが、これらの活用方法は重要な課題となっている。そのような状況の中で、図書館職員がおこな

う管理・保存のみでは十分とは言えず、専門的な知識が必要となる書物の整理をおこなうことは能力的にも物理的にも不可能であるため、研究者との役割分担と協力体制が必要であることは言うまでも無いことである。今回聞き取り調査をおこなった関西の仏教系図書館では、各大学がそれぞれ独自の博物館・ミュージアムを持っているため、図書館や博物館が積極的に研究者と協力・連携しながら、役割分担とともに情報公開を推進している。

今後は、大正大学の所蔵する多数の貴重な和本の整理が必要となるため、仏教系大学だけでなく、情報公開に積極的な他大学とも情報交換をしながら、図書館職員との共同研究の実施を検討していく必要があるだろう。

急速に発展している人文情報学の分野において、研究者の文献・資料の扱い方も進化し、効率的に情報を取り扱える状況にある。特に第一次資料である和本や梵文写本のデジタル公開が世界中の図書館・研究機関ですすめられている。このように多数の資料の氾濫する中で、研究者がどのように必要な情報にアクセスし、また入手した情報に対し、どのような点に注意を払わなければならないのか、また、情報の発信源としての大学図書館の役割と研究者の協力体制について、研究会を実施した。その一環として、永崎研宣氏（一般財団法人人文情報学研究所）と入江 伸氏（慶応大学メディアセンター本部電子情報環境担当）により、「デジタル時代の仏教文献の扱い方／大学における貴重資料のデジタル化から利用・公開までの考え方」をテーマとして、公開講座を実施した。